



外国出張報告書

平成 26 年 11 月 25 日

1. 出張国名 エチオピア
2. 出張月 平成 26 年 10 月～11 月
3. 出張目的 在来種植生の現存量調査：A

4. 成果の概要

ティグライ州北部高原地帯の優占樹種である *Acacia etbaica* 林を対象に現存量推定等のための伐倒調査を行った。地域を管轄する行政事務所の許可を受け、サイズの異なる 5 つの株（立木）を選定し、サイズパラメータ及び各器官重を測定した。供試木の切断面から、年輪と考えられる 50 以上のリングを確認し、幹直径 8 cm 程度、樹高 2m 程度であることから、本地域における同種の成長には長期を要することが伺える。

計測したサイズパラメータからは、樹冠面積と株高あるいは株の幹断面積との間に高い相関があることを明らかにできた。樹冠面積読み取りにより今回対象とした地域以外でも面積あたりの現存量推定が可能となると考えられる。画像または航空写真解析による灌木疎林の現存量推定手法の開発も検討すべき課題であろう。